

不二製油グループ本社株式会社 2019 年度第 3 四半期決算電話会議 主な質疑応答

・日時 : 2020 年 2 月 4 日 (火) 16:00~17:00
・スピーカー : 取締役 最高財務責任者 (CFO) 松本 智樹

●業務用チョコレート事業に関して

Q.ブラマー社のカカオ豆事業の先物相場の影響の見通しは

3Q 末の先物評価損は約 19.5 億円となっている。またブラマー社の 4Q 末である 20 年 1 月末の影響については現在精査中であるが、更に先物評価損が拡大する可能性があり、見通しに大きな影響を与える場合は改めて報告させて頂く。

Q.ブラマー社の 3Q での施策の進捗状況と今後の業績見通しは

生産性の改善と人員の確保を進め、改善の実績が出てきている。また、出向者やその他応援チームを含め、人材資源を割いて対応している。来期には生産面でも安定するほか、カカオ豆相場のボラティリティを軽減するスキームも稼働し、需要期に対応できるよう進める。

Q.ハラルド社の足元の好調は持続するか

リアル安は依然として続いているが、景況は改善傾向にあり、需要も戻ってきている。生産面でも改善し、ハラルド社の新社長着任後の計画に沿って進行している。また将来的な生産能力の増強も視野に検討しており、今後の成長が期待できると考える。

●大豆加工素材事業に関して

国内でも大豆ミートのマーケットが盛り上がりつつあるが、不二製油への影響は

大豆ミートの原料となる粒状大豆たん白の引き合いは非常に強い。当社は 20 年 7 月に粒状大豆たん白の新工場が稼働予定だが、垂直立ち上げを見込んでおり、高い成長が見込める。ただし、2020 年度の業績影響については限定的である。また大豆ミートの原料に限らず、植物性たん白の引き合いは非常に強く、引き続き Plant-Based Food Solutions を推し進めていく。

●4Q 以降の業績見通しに関して

Q 今期決算の押し下げ要因となるリスクは何か

- ①中国の新型肺炎による操業停止の長期化
- ②1 月に入り急騰したカカオ豆相場における、ブラマー社の期末の先物評価損の拡大

Q.足元での主要原料の相場上昇による業績インパクトは

来期の上期あたりまで原料を抑えているため、来期の上期までのインパクトは限定的。

下期は特に日本の油脂事業において、影響を受ける可能性があるが、コストダウンや顧客への付加価値品の提供によりカバーしていきたい。

以上